簡易型河川監視カメラの概要

○ 平成30年度頃に革新的河川技術プロジェクトで開発した簡易型河川監視カメラの基本的なコンセプトは踏襲しつつ、最新の技術を取り入れて、機能向上を図る。
○ リアリティーのある河川の状況を画像で伝えることで、住民の適切な避難判断を促す。

現行（標準的な仕様）	今後（仕様案）
屋外に容易に設置 ➢ 無線式の場合は電源・通信ケーブルの確保不要（無線通信、太陽電池等を利用） **機能を限定しコストを低減** ➢ ズームや首振り機能は削除 ➢ 最低被写体照度0.5lx以下 ➢ 太陽電池は5分間隔の静止画伝送の運用下において7日間無日照でも連続稼働できるもの ➢ 機器本体価格は、30万円／台程度 **インターネットを経由して画像を収集** ➢ 水位計のデータ等と併せて提供	**屋外に容易に設置** ➢ 無線式の場合は、電源・通信ケーブルの確保不要（無線通信、太陽電池等を利用） ➢ 必要に応じて寒冷地対応を選択できるよう追加 **現場条件に応じて機能を選択** ➢ 監視対象の現場環境（環境光源や被写体との距離等）に応じて、標準型（0.02lx以下を目安）、高感度型（0.005lx以下を目安）、超高感度型（0.0005lx以下を目安）を選択可能とする。 ➢ 太陽電池は5分間隔の静止画伝送の運用下において7日間無日照でも連続稼働できるもの（経年劣化も考慮する） ➢ 機器本体価格（電源部除く） は、40万円～80万円／台程度 **インターネットを経由して画像を収集** ➢ 水位計のデータ等と併せて提供 ➢ セキュリティ対策を強化

新月における
夜間の視認性

参考事例

・山間部で全く環境光源が無い区域で、標準型の場合
（他の条件次第で、見え方は変化する）

・山間部で全く環境光源が無い区域で、高感度型の場合
（他の条件次第で、見え方は変化する）